



岡山大学理学部同窓会役員名簿		
令和5年8月1日現在		
役員	氏名	所属等
会長	富岡 憲 治	名誉教授
副会長	市岡 優 典	理学部長（教授）
理事	大下 承 民	数学科長（教授）
理事	池 畑 秀 一	名誉教授
理事	野 上 由 夫	物理学科長（教授）
理事	味 野 道 信	グローバル人材育成院教授
理事	篠 田 渉	化学科長（教授）
理事	岡 本 秀 毅	化学科准教授
理事	川 本 平 山	全学同窓会理事（化学科）
理事	吉 井 大 志	生物学科長（教授）
理事	茶 谷 悠 平	生物学科准教授
理事	隈 元 崇	地球科学科長（教授）
理事	野 坂 俊 夫	地球科学科准教授
理事	久保園 芳 博	附属界面科学研究施設長
監事	阿 保 達 彦	副学部長（教授）
監事	金 田 隆	副学部長（教授）

令和4年度 岡山大学理学部同窓会会計報告

(単位：円)

収 入		支 出	
摘 要	金 額	摘 要	金 額
1 前年度繰越	3,253,936	1 事業費	427,870
(1) 普通預金	3,239,355	(1) 理学部同窓会実施事業	227,870
(2) 小口現金	14,581	会報製作費	1,300 110,500
		製作費振込手数料	440
		会報送料	1,063 通 116,930
2 会費	580,000	(2) 全学交流行事支援事業	0
(1) R4年度入学生	565,000	(コロナ禍で実施できず)	
@5,000×113名	565,000	(3) 就職活動支援事業	0
(2) R3年度以前入学生	15,000	(コロナ禍で実施できず)	
@5,000×3名	15,000	(4) 同窓生進学支援事業	200,000
		研究奨励金(博士後期)2名	200,000
3 預金利息	31	2 事務費	0
4月1日	15		
10月1日	16		
		3 繰越金	3,406,097
		(1) 普通預金	3,391,516
		(2) 小口現金	14,581
合 計	3,833,967	合 計	3,833,967

■編集後記 対面会議の復活と同窓会活動の活性化

新型コロナが感染症分類上の第2類から第5類に移行して以来、人の流れの急速な拡大とともに世の中に明るさと活気が戻って来た。このような環境の中で、岡山大学 Alumni(全学同窓会) 東京支部総会と全学交流会が4年ぶりに対面形式で開催され、理学部同窓会関東支部総会に出席し、首都圏で活躍されている理学部卒業生と交流する機会を持つことが出来た。数名の新たな卒業生も加わり理学部同窓会関東支部の着実な歩みを実感するとともに関係者のご尽力に感謝し関東支部の益々の発展を願うものである。

岡山大学 Alumni(全学同窓会) 理事 川 本 平 山

お問い合わせ先

岡山大学理学部同窓会事務局

〒700-8530 岡山県岡山市北区津島中三丁目1番1号 岡山大学理学部内
TEL:086-251-7764 FAX:086-251-7777
E-mail:alumni-sci@okayama-u.ac.jp

<http://www.science.okayama-u.ac.jp/alumni-sci/>

OKAYAMA UNIVERSITY

岡山大学理学部

同窓会会報

School of Science Okayama University Alumni Association

サケの母川回帰に思う

皆様にはお変わり有りませんか。

この頃になると、若いころ、北海道で見たサケの母川回帰の様子を思い出します。サケは育った川の水の成分を覚え、海に下って数年間の回遊を終えと、繁殖のため迷うことなく自分の育った川に帰って行くということは皆さんご存じのことと思います。千歳川のサケマス孵化場で孵化し、放流されるまでそこで育てられたサケは、千歳川に戻るのみならず、なんと自分が育てられた孵化場の池にまで戻って来ていたのです。孵化場の池からは、幅がほんの20cmほどの細い水路を深さ5cmにも満たないわずかな水が流れ出て、千歳川に注ぎこんでいました。サケは大量の水が流れる千歳川から、そのほんの僅かな水が流れ出る水路に跳ね上がり、くねくねと身体をくねらせながら、自分が育ったその池に戻って来ていたのです。知識として知ってはいたものの、この様子に驚き呆れたことを今でも思い出します。振り返ってみますと、私自身、育てていただいた岡山大学での体験や経験が、自分の中に深く刻み込まれていることに気づくのです。

さて、皆さんはいかがでしょう。どこかに岡山大学での経験・体験が残っていることを感じておられるのではないのでしょうか。また、それぞれに期間は異なると思いますが、岡山大学で過ごした時間を思いだされることと思います。サケの母川回帰ではありませんが、機会があれば同窓会に集ってみませんか。過去を懐かしむとともに、私たちの後輩にあたる現役の学生さんたちと交流し、激励するとともに、私たちも新たな活力を頂けると思います。

先ごろ、東京で開催されました関東支部総会に参加させていただきました。久しぶりにお会いした方、初めてお会いした方、いずれも岡山大学理学部出身という共通のルーツを持つことで、自然と話しが弾みました。会長をお引き受けし、同窓会で何ができるのか、何をすべきか、を真剣に考えるようになりました。同窓会の活動について、会員の皆様の思いは様々だと思います。機会あるごとに、皆さんの思いを聞かせていただき、今後の運営に活かしていきたいと思っております。

岡山大学理学部同窓会会員の皆様へ

皆様いかがお過ごしでしょうか。同窓生の皆様には、日ごろより岡山大学理学部の教育・研究活動へのご支援を賜っておりますこと、誠に感謝いたしております。

これまで約3年間は新型コロナウイルス感染症による活動制限の厳しい中で教育・研究を継続しておりましたが、今年度になり、新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、大学としての活動制限はなくなりました。これにより、対面授業を主体とした通常の教育活動によりやく復帰することができましたこと、たいへんうれしく思っております。

さて、理学部に関連した教育組織改革の報告になりますが、今年度より大学院が環境生命自然科学研究科となりました。これは、これまでの自然科学研究科と環境生命科学研究科が合併し、理学系・工学系・環境理工系・農学系が一つになった大きな研究科です。理学部生の進学先は各学科に対応する「コース」があり専門的な教育・研究を担いますが、複数のコースを包含する「プログラム」が学部の枠を超えた融合型となっており、基礎科学から応用までを俯瞰した融合的視野も育むことを目指しております。

最後になりましたが、皆様方がますますご活躍されますとともに、理学部同窓会の益々の発展を心よりお祈り申し上げます。

▼活動報告

2023.7.28 理事会開催

2023.7.22 理学部同窓会関東支部総会開催

2023.5.15～5.19 理事会（メール会議）開催

2022.12.19～12.23 理事会（メール会議）開催

2022.10.22 理学部同窓会を開催

2022.9.27～9.30 理事会（メール会議）開催

2022.7.23 理学部同窓会関東支部総会開催

2021.10.8～10.12 理事会（メール会議）開催

2021.9.29～10.4 理事会（メール会議）開催

2020.8.7～8.17 理事会（メール会議）開催

2019.10.26 理学部同窓会を開催

2019.9.4 理事会開催

2019.7.27

理学部同窓会関東支部総会を開催

2019.5.22 理学部同窓会関東支部交流会を開催

2018.10.20 理学部同窓会を開催

2018.7.28 岡山大学 Alumni(全学同窓会)

東京支部、各学部支部と合同総会・交流会

理事会開催

2018.7.25 理学部同窓会関東支部設立

2018.4.1 理学部同窓会を開催

2017.10.21 理学部同窓会を開催

2017.7.26 理事会開催

2016.10.22 理学部同窓会を開催

2016.9.7 理事会開催

2015.10.17 理学部同窓会を開催

2023.10
第12号岡山大学理学部同窓会 会長
(昭和53年理学部生物学科卒業)

富岡 憲治



岡山大学理学部長

市岡 優典

【会則】 平成24年3月 5日 制定
平成30年7月25日 改正

(名称) 本会は、岡山大学理学部同窓会（以下、「本会」という。）と称する。

(目的) 本会は、会員相互の親睦・情報交換、並びに資質の向上を図り、併せて岡山大学理学部及び自然科学研究科の発展を目的とする。

(事業) 本会は、目的を達成するために次の活動を行う。

- 総会の開催
- 会報の発行
- 会員名簿の管理
- その他、本会の目的達成に必要な事項

(構成)

第4条 本会は、所在地を岡山市北区津島中三丁目1-1岡山大学理学部内に置く。
2 本会は、事務局を設け、事務職員を置くことができる。

3 本会は、必要な学科並びに地域に支部を設置することができる。支部には代表者を置く。

(学科同窓会)

第5条 本会は、学科及びそれに関連する大学院卒業者に別に組織する同窓会（以下「学科同窓会」という。）と連携協力を得て、本会の事業を行う。

(会員)

第6条 本会は、次の項に掲げる会員をもって構成する。

- 正会員
岡山大学理学部及びそれに関連する大学院の卒業生・修了生
 - 学生会員
岡山大学理学部及びそれに関連する大学院の在学学生
学生会員は、卒業することにより正会員となる。
 - 特別会員
岡山大学理学部及びそれに関連する大学院の教員及び技術職員並びに事務（室）長として在職した、又は在職する者
その他、理事会において入会を認めたる者
- 2 本会の会員は、氏名・住所・電話番号・勤務先・メールアドレスなどの変更が生じたときは、本会事務局に届け出るものとする。

(学科同窓会の会員)

第6条の2 学科同窓会の会員は、本会の正会員に準じて取り扱うこととし、その取扱いは別に定める。

(役員)

第7条 本会に、次の役員をおく。

- 会長 1名
- 副会長 1名
- 理事 若干名
- 監事 2名

第8条 役員の仕事は次のとおり定める。

- 会長は、会務を統括する。
- 副会長は、会長を補佐し、事務局を統括する。
- 理事は、会長に協力し、会務を執行する。
- 理事は、各学科会員を代表し、本会と各学科会員との相互連絡にあたる。
- 理事は、本会の目的達成に必要な業務（総務・会計・広報・名簿管理等）を分担する。
- 監事は、会計及び会務を監査する。

第9条 役員の出選方法は次のとおり定める。

- 会長は、会員の中から推薦するものとし、理事会で選出する。
- 副会長は、岡山大学理学部長をもってあてることとする。
- 理事は、学科毎に学科長を各めて2名程度とし、理事会で選出する。
- 監事は、理事会で選出する。
- 会長、副会長、理事、監事の任期は2年とし、再任を妨げない。

(会議)

第10条 会議は、総会、理事会及び役員会とする。

第11条 総会は、本会の重要事項について審議が必要な場合において、理事会の議を経て、会長がこれを召集する。

第12条 理事会は、会長、副会長、理事及び監事をもって組織し、会長がこれを召集する。

- 理事会の議長は会長または副会長が当たる。
- 理事会は、年1回以上開催し、次の各号に掲げる事項を審議する。
 - 会則及び施行細則の改正に関する事項。
 - 会務及び業務報告に関する事項。
 - 決算承認及び予算の議決に関する事項。
 - その他、役員会において必要と認めたる事項。

4 理事会は役員の過半数の出席をもって成立し、議事は、出席者の過半数をもって決する。

第13条 役員会は、会長・副会長で構成する。

2 役員会は、本会の会務の企画又は執行の必要に応じて随時開催し、協議の結果は理事会に提案並びに報告をする。

(支部の地域)

第14条 本会の目的を達成するため、理事会の承認を得て、地域ごとに支部を置くことができる。

(支部組織)

第15条 支部は、その地域内の会員をもって組織する。

(支部地域変更)

第16条 支部は、理事会の承認を得て、地域を変更することができる。

(支部の役員)

第17条 支部に役員として、代表幹事1人及び幹事若干人を置く。

2 支部の役員は、当該支部の会員の中から選出する。

3 代表幹事は、支部を代表し、支部の会務を執行する。

4 幹事は、代表幹事を補佐する。

(支部の会則)

第18条 各支部は、当該支部に関する会則を定めることができる。

2 支部がその会則を定めた場合は、理事会に報告するものとする。

(支部幹事会)

第19条 各支部がそれぞれ支部幹事会を置き、代表幹事及び幹事をもって構成する。

2 支部幹事会は、必要に応じ、代表幹事が召集し、代表幹事がその議長となる。

3 支部幹事会は、支部の運営に関する事項を協議する。

(支部の経費)

第20条 支部の経費は、当該支部所属会員の負担とする。

2 本会は、支部に補助金を交付することができる。

(会計)

第21条 本会の運営に要する経費は、会費・寄付金・その他の収入をもってあてる。

第22条 本会の会費を次のとおり定める。

- 正会員は、入会金（終身会費）5,000円を納付するものとする。ただし、既に学生会員である者の入会金は不要とする。
- 学生会員は、入会金（終身会費）5,000円を入学時に納付するものとする。
- 既に学科同窓会の会員であって本会に入会する者は、その入会金を免除する。
- 会費の納付方法については、別に定める。

第23条 本会の運営に要する経費にあてるため、会員及び学科同窓会等から寄付金を受領することができる。

第24条 会計担当理事は毎年、理事会或いは会報で本会の会計を報告する。

第25条 監事は、毎年本会の会計を監査する。

第26条 会計担当理事は、正会員の要求があれば会計帳簿を随時開示しなければならない。

第27条 本会の会計年度は、毎年4月1日から翌年3月31日までとする。

(雑則)

第28条 この会則に定めるほか、本会に関して必要な事項は、理事会の議を経て別に定めることができる。

2 理事会は、会則等重要な規定の改正を会報により報告するものとする。

(附則)

- この会則は、平成24年3月5日から施行する。
- この会則は、平成24年3月卒業生から適用する。
- 会計管理は、事務局が行い代表者は事務局長とする。

(附則)

1 この会則は、平成30年7月25日から施行し、平成30年4月1日から適用する。

岡山大学理学部同窓会 別表				
名 称	地域名	設立年月日	代表者	連絡先
岡山大学理学部同窓会	本部	平成 24 年 3 月 5 日	会長 富岡 憲治	理学部事務局 086-251-7764
岡山大学理学部同窓会 関東支部	関東地区 (東京、千葉、神奈川、埼玉、 栃木、群馬、及びその周辺)	平成 30 年 4 月 1 日	代表幹事 米森 重明	米森 重明 090-5330-2391



各学科近況報告

数学科 Department of Mathematics

今年度数学科は20名の新入生と9名の3年次編入生を迎えています。昨年2号館への引越が完了し、合同演習室があった場所に数学大講義室ができました。以前より広く横長の形状で黒板が前面と側面にあり黒板を使用した授業と演習がしやすくなりました。数学科では数年前から3年次編入生の定員が増えていますが、人数の増えた3年生の授業にも対応しています。

1年間の新着ニュースですが、数学科卒業生の難波隆弥さんが昨年9月に「日本数学会賞建部賢弘奨励賞」を受賞しました。また、4月に大学院の改組があり今年度進学した学生は環境生命自然科学研究科博士前期課程環境生命自然科学専攻数理情報科学学位プログラム数理科学コースに所属しています。

教員異動ですが、数学科ではこの3月末をもって、代数学の田中克己教授が定年退職され、解析学の田口大准教授および代数学の柴田康介研究助教が転出されました。来年の春には新しい准教授の先生を迎える予定です。



数学科長 大下 承民

VOICE
卒業生からの声

私は理学部数学科を卒業後、財務専門官として、財務省の出先機関である財務局で勤務しています。現在の私の業務は、地域経済の調査・分析であり、主に企業へのヒアリングなどを行っています。企業の方とお話するのは緊張しますが、様々なことを教えてくださり、とても勉強になっています。まだまだ慣れないことも多いですが、周りの方にサポートしていただきながら日々働いています。時には大変な業務もあるかもしれませんが、常に冷静に物事を判断しつつ、業務に励みたいと思います。

大下 凜
(2023年3月 理学部数学科卒業)

物理学科 Department of Physics

観測技術進歩に伴い約130億光年離れたところの原始銀河や、個々の星までも観測可能になっています。遠くを見ると過去を見ることになり、宇宙の始まりビッグバンの情報もわかります。宇宙背景放射中の原始重力波のモードを解析するとビッグバン以前のインフレーションを追跡可能になりつつあり、物理学科でも宇宙創成の研究に参画する研究室も増えています。

一方、量子位相の研究に始まり、固体中にもニュートリノ、モノポール、マヨナラ粒子、アクシオン対応粒子も発見されました。特に十数年前に始まったトポロジカル物質の研究はトポロジーにより、物性が大きく変化する可能性を秘めており、理論・実験の両方から岡山大学の物理は日々進展しています。



物理学科長 野上 由夫

VOICE
卒業生からの声

私は博士後期課程修了後に長崎で半導体の開発に従事しています。学生時代には宇宙創成を調べる衛星計画LiteBIRDの偏光変調器を開発していました。半導体関連は異分野でしたが、博士課程で論文を読み調べた経験や、基礎物理の理解は新分野を学ぶ上で大きな助けとなりました。仕事をする際にも背景の物理からしっかりと理解することを心がけており、博士課程で培われた姿勢は周囲にも評価されています。私生活では、新天地長崎での暮らしにも慣れ、毎週末カメラを片手に趣味の昆虫観察を楽しんでいます。

小松 国幹
(2021年9月博士後期課程修了、仁科賞受賞)

地球科学科 Department of Earth Sciences

地球科学科では、今年度は新入生27名と3年次編入生4名の学生さんを新たに迎えることができました。私といえば昨年度から連続で学科長を務めることとなりましたので、4月の新入生への歓迎の挨拶も2回目でした。

昨年度はまだ、「大学の活動制限レベルに従って対面授業は増えてきています。その中で交流の機会も増やしたいです」と話さなくてはなりませんでしたが、今年度は、「新型コロナには引き続き留意しつつ、原則対面で実施される講義・実習では教員との直接の質疑で地球科学の面白さを肌で感じてください」と伝えることができました。

もちろん、学内外の活動についてコロナ禍以前と完全に同じレベルにはまだ戻っておらず、例えば新入生合宿研修は今年度も見送りました。それでも、講義室で真剣に教員の話を聴く姿や休み時間にグループ作業する姿をみるにつけ、大学には学生さんの活気が必要だとあらためて感じました。

コロナ禍の最盛期に入学した学生さんは、今年4年生でいよいよ卒業研究に取り組みます。そうした研究や講義での学生さんの知的好奇心に十分に答えられるようにスタッフ一同努力してまいります。

本年も同窓生のみなさまのご活躍とご健康を祈念しつつ、引き続き地球科学科へのご支援をいただけますようお願い申し上げます。



地球科学科長 隈元 崇

Faculty of Science Message from OB

三村 峻太
(2023年3月 自然科学研究科博士前期課程地球科学専攻修了)

私は2017年に理学部地球科学科に入学し、修士課程まで6年間お世話になりました。卒業論文・修士論文の研究では、AIを用いた地形区分の自動化をテーマとする中で、計算機での地形発達シミュレーションとの連携を鹿児島県喜界島の海成段丘地形を対象に作業しました。その成果で自然科学研究科・研究科長賞を頂いたことは、私の自信になりました。

現在は、Hondaの先進技術研究所にて、AIや統計解析により交通事故の予兆を検知する研究に従事しています。また、全交通参加者の情報を集約して事故リスクを予測することで、交通事故を未然に防ぐ「安全・安心ネットワーク技術」の構築という研究にも参加しています。

学生時代と現在では研究対象が異なり、まだ入社してということでも力不足を感じることも多々あります。他方、データ分析の手法に関しては共通部分も多くあり、学生時代の研究活動が活かしていることも実感しています。さらに、地球科学科で学んだ知識を会社が保有するデータと組み合わせることにより、新たな視点で研究に資するアイデアを見出せるよう努力する毎日です。

みなさんが岡山大学理学部での授業や研究を通じて学んだことは、将来的に必ず貴重な財産になります。目の前の学びを全力で楽しみ、素晴らしい学生生活を送ってください。

化学科 Department of Chemistry

今年度は、化学科及び異分野基礎科学研究所の化学系教員21名(兼任教員を含む)が、学部生、大学院生の研究教育を担当しています。4月に大久保貴広先生が教授に昇任しました。今後とも無機化学研究室をリードし、益々活躍されると期待されます。

今年度の新入生は32名、3年次編入生は6名でした。対面での講義や学会、国際会議もほぼすべて普段通りに戻り、コロナ禍の影響はほぼなくなっており、外国機関との交流も盛んになりつつあります。4大学合同国際ワークショップ(国立台湾大学(台湾)、チュロンコン大学(タイ)、岡山大学、広島大学)が8月後半から9月頭にかけて4年ぶりに国立台湾大学(台北市)で開催され、化学科から5名の学生が渡航し、参加します。

化学科では今後も教育・研究に活発に取り組んでいきますので、今後ともご支援のほどよろしくお願い致します。最後に、同窓生の皆様のご活躍とご健康を祈念いたします。



化学科長 篠田 渉

生物学科 Department of Biology

高橋裕一郎先生、富岡憲治先生に続き、今年の3月には上田均先生がご退職されました。後任として、臨海実験所の坂本浩隆先生が教授として異動されています。また、本年度から茶谷悠平先生が准教授として、中島芳樹先生と齊藤恭紀先生が助教としてご着任されています。ここ最近では、生物学科の教員がたくさん入れ替わりました。フレッシュな教員の加入によって、教員も学生も刺激を受けているのではないのでしょうか。

光熱費等の高騰により学科運営も厳しさを増していますが、その中でも生物学科の各教員は知恵を絞り、最先端の研究を推進しています。4年生の卒業研究ではその一端に触れることができると思います。もしかすると一生ものの財産になるかもしれません。

生物学科長 吉井 大志

VOICE
卒業生からの声

私は時間生物学研究室に所属しており、現在は博士後期課程の学生として「体内時計の神経メカニズムの研究」を行っています。今年度は「令和5年度岡山大学科学技術イノベーション創出フェロシップ(OUフェロシップ)」の受給者として採択され、金銭的なストレスもなく、研究活動中心の生活を送ることができています。自分の研究を進めるだけでなく他の学生への指導も含め、初心を忘れず研究生生活を送っていききたいと思います。

齋藤 愛加
(2021年3月 理学部生物学科卒業)

附属臨海実験所 Marine Laboratory



写真の説明
アメフラシ(軟体動物):5月から7月にかけての観測集の「大物」として実習生を楽しませています。実習室の水槽内でとんどん交尾・産卵を行います。

今年度、臨海実習IIは海外からの共同研究者との交流など、充実した内容になりました。臨海実習IIIでは絶滅が危惧されるウナギについて、環境DNAから分布を追跡するという興味深い調査が行われました。さらには公開臨海実習も兼ねた臨海実習II、本学教育学部、奈良女子大学、甲南大学の臨海実習など、多くの学生が海を学んでいます。

天候等により全ての実習が最善の状態とはならず、よい実習環境を提供できるよう工夫が必要になるのは昔から変わりません。学内外との共同研究などもコロナ禍以前の状態にほぼ戻りました。



所長 坂本 竜哉

附属界面科学研究施設 Laboratory for Surface Science



低温高圧電気抵抗測定中の大学院生と学部生

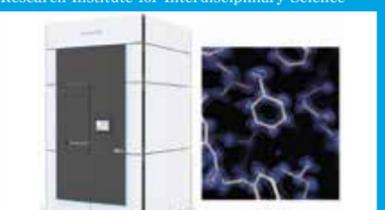
附属界面科学研究施設は、薄膜物性学部、粉体物性学部、先端超伝導材料研究部門の3つの部門から構成されており、すべての教員が異分野基礎科学研究所に所属している。

薄膜物性学部は主として角度分解光電子分光を使った機能性薄膜物質の電子状態の解析や、Qカーボンのような新しい炭素系超伝導物質や機能性酸化物に関する研究を、粉体物性学部では、無機・有機超伝導物質の開発やグラフェンや有機多環縮合系物質を使った電界効果キャリアドーピングの研究を行っている。先端超伝導材料研究部門では、高温超伝導物質探索や、新規なトポロジカル物質系の超伝導研究を行っている。したがって、本施設でのほとんどの研究は、超伝導を始めとする新規な物理の探索に関するものである。



施設長 久保園 芳博

異分野基礎科学研究所 Research Institute for Interdisciplinary Science



300 kVのクライオ電子顕微鏡

異分野基礎科学研究所では、大学の予算で300 kVのクライオ電子顕微鏡の導入が決定し、本年の8月に異分野基礎科学研究所棟1階に入ることになりました。その後据付調整を経て使用することができ、タンパク質複合体の構造解析研究の進展が期待されます。それに伴い、概算要求が認められ、他部局所属教員の参加を得て、異分野基礎科学研究所附属センターとして「国際構造生物学研究センター」が本年4月1日に設立されました。研究所では他にも強磁場下における物質の挙動、超伝導材料、量子宇宙、理論計算や新規有機太陽電池の開発等多岐にわたる研究が展開されています。人事関係では、光合成・構造生物学研究コアで齊藤恭紀、中島芳樹両助教が着任しました。同窓会の皆様におかれましては、引き続きご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。



所長 沈 建仁